

## 第2回地域課題解決の仕組みづくり会議録

日 時：平成28年7月8日（金）午前10時～12時

場 所：あしや市民活動センターリードあしや 会議室C

出席者：朝倉己作（(特活)芦屋市手をつなぐ育成会）宇佐見裕子（精道小学校 smile ネット）金木友子（精中応援隊）加茂田圭（芦屋市公光郵便局）小泉星児（芦屋市商工会青年部）三芳学（(社福)芦屋市社会福祉協議会）辻本久夫（こくさいひろば芦屋）長城紀道（芦屋法律事務所）奈良雅美（(特活)あしやNPOセンター）

芦屋市企画部市民参画課山田課長 谷野係長 幾波課員  
芦屋市立あしや市民活動センターリードあしや 橋野

### 【次回までに行うこと】

- ・提供できる場所、制度、枠組みを事務局でまとめる。
- ・次回までに子ども支援のイベントや、仕組みなどアイデアを個々にアップする。

### 1 前回の振り返り

- ・名称はあしや笑顔ネット、目的は子どもの支援と決まった。
- ・メーリングリストを通じて振り返りや、意見交換等、積極的に利用していく。
- ・具体的な活動が見えてきた場合に、活動ペースはできてくる。
- ・この会議はシステムを作ることであり、実行部隊になるものではない。課題を見つけアイデアを出し、橋渡しをするものであり、抱え込むものではない。

### 2 芦屋市の現状報告

#### 1) 宇佐見裕子さん（精道小学校 smile ネット）

##### 【発表内容】 詳細は資料参照

- ・子どもの立場（保護者からの声）からは、多忙、外遊びができない、学校連絡網がなく繋がりにくいなどの現状。コミュニケーション不足、体験不足、居場所の不足。
- ・保護者の立場からは、共稼ぎ家庭の増加、家庭形態・価値観の多様化、子育てに自信が持てない。
- ・地域の立場からは、子どもとの触れ合いの場が少なくなっている。
- ・学校の立場からは、学校に期待させる役割が大きく、負担が大きくなっている。
- ・団体としては、子育てカフェを開いたり、ボランティアに来ていただき学校の現状をみてもらい先生の負担をわかってもらったりしている。

##### 【意見交換】

- ・生活が豊かな方とそうでない方との差があるのではないか。
- ・昔は教育水準が高いと言われていたが、現在は外部教育に頼っている。

- ・特徴としては、下の層は見えにくいのではないかとと思われる。
- ・子ども（小学校低学年）の遊びは、YouTubuということも少なくない。

## 2) 金木友子さん（精中応援隊）

### 【発表内容】 詳細は資料参照

- ・中学生、高校生の意見のみを取り上げている。
- ・多忙な学生が多い。
- ・ネット等のマナー、モラルを最初に躰けてほしい。
- ・中高生が集まっていると、通報する等、中高生を地域が分かっていない。
- ・構われたくないが、話は聴いてほしい。大人との関りを望んでいるのか。
- ・「特になし」の理由が気になる。全てが楽しいのか、考えられないのか。
- ・弁当のない子、給食に頼っている子がいる。
- ・我が子しか見えていない親が多い。
- ・地域で子育てができてくればと希望する。
- ・中学の制服代に約 10 万円必要、助成金は半年後に出る。
- ・意見が言えない子に視点を置かなければならない。

### 【意見交換】

- ・集まれる場所が少ないのではないか。
- ・中、高生は宿題をする場所が必要。
- ・山手地区は高学歴の父兄が多く、生活保護受給者率は浜、潮見小学校地区が多い。
- ・中学校は全員部活制度、外部のクラブチームに入っている人もいる。
- ・外部指導者が入っている部活もある。
- ・人生の目的さえあれば子どもはなんとでもなるのか。先生がどれだけのことを教えられるのか。師と思える人が増えるのは良いと思える。
- ・中学のトライやる・ウィークは師を見つけるよい機会だと思える。
- ・良い機会を与えるための場所、人、体験が必要。

## 3) 辻本久夫さん（こくさいひろば芦屋）

### 【発表内容】 詳細は資料参照

- ・2006 年大人支援中心に立ち上がった市内 3 番目の日本語教室である。
- ・2007 年から子どもが増えてきた。
- ・勉強、言葉（日本語）の難しさから、「成績」が良くない子どもが多い。
- ・夏休みや春休みの学習支援には、大学生や高校生がボランティアで来ている。
- ・2016 年 4 月に登録した小中・高校生 31 人のうち外国籍は 12 人、ほかは二重国籍(統計上は日本国籍と扱われる)。国際結婚家庭が増えている。
- ・設立後 9 年間の中学校卒業生のうち、全日制高校進学は 10 人、定時制・多部制高校は 11 人である(中等学校は除く)。当教室に来ているのは芦屋浜地域の子どもが多い。

- ・当教室は、おとなや子どもたちの自信向上のため、キャリアアップを目的にしている。
- ・勉強、日本語がわからないための不登校になっていく子どももいる(率は高い)。
- ・外国育ちの保護者に日本の進級・卒業制度の違い、小学校、中学校はテストなしで上がっていくことが理解されていない。
- ・2015年度から「芦屋レインボー基金」を創設して、各種検定料を補助し資格を取らせることを始めた。
- ・芦屋市は外国籍児童生徒の公立小中学校在籍率は、兵庫県で5番目である。
- ・課題は、当教室と、行政や小中高の連携が十分にできていないこと、また来日直後の緊急支援に対応できる場所がないことである。

### 【意見交換】

- ・夜教室は、子ども12、3人にボランティア3~5人。ボランティア不足。
- ・日曜日は小学生13人、中学生5人、大人5人、ボランティア10人。
- ・子どもの日本語や学習理解に格差があり、高校生には電子辞書を利用させている。
- ・5年生末に来たブラジル人生徒は敬語まで使えるが、教科書が読めない。学校での応援がない。
- ・兵庫県の学校サポータ制度は来日2年以内の子どもにしか派遣されず、英語圏には派遣なし。
- ・芦屋市内の「子ども多文化共生センター」は、サポータの派遣と相談のみで、行政に繋ぐだけで内容まで踏み込まない。専従1人、職員1人だけで十分な機能はできない。土・日は休みなので施設の活用が望まれる。
- ・中学校では教科書にふりがなを打つなどのサポートができていない。潮見中学校では、学習支援加配として宿題を見る程度の支援がある。
- ・昨年度から兵庫県外国人生徒特別入学が始まった。学力以外に意欲を見るものだが、来日3年以内で3校各3人だけという厳しさである。
- ・学校外で子ども同士が遊べる場や、子ども同士で話ができる場所が必要。
- ・1年間で日常の日本語ができるようになるが、学習言語理解が伴う勉強はできない。
- ・当教室に通う家庭には就学援助が多く、生活保護もある。収入不安定が多い。

## 3 協議事項

### 1) 現状報告から見えること(背景と目的)

- ・関係性が難しくなっているため、コミュニケーションを深めるための、場をつくって機会を与えることが必要なのではないか。支える人、見る人、大人側の運営者が必要であるのでは。
- ・子どもが忙しいというところから、居場所を作っても行ける時間があるか、主体性を発揮できるのか、仕向ける方法等など問題である。

- ・ 枠だけ作っても、目的がはっきりしていなければ来ない。
- ・ 障がい者の場合はイベントで集めている。運動、音楽、社会人サークル等。
- ・ 集まったらそこから生まれることがある。
- ・ 時間にとらわれず利用できる場所が必要。
- ・ 福祉センター、土・日に子どもたちが行ける場所がないか問い合わせたが、ないとのこと。
- ・ 体協チャレンジ等、その場では仲良くできるが、その場限りである。

## 2) 次回の会議

8月23日(火曜日) 13時—15時